

令和2年度 東はりま特別支援学校 学校評価

設問	重点	項目	評価項目	職員評価			保護者評価	成果及び課題・改善策	外部関係者評価
				今年度	昨年度	今年度			
1	こどもの育ちを実感する学校づくり	教育課程 授業改善 生きる力 主体的・対話的深い 学び	児童生徒の発達段階から、小中高の縦のつながり、連携を考えた授業の充実を図っている。	2.7	2.9	3.3	今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するために、小集団での学習が多くなった。個々の学習課題の定着はできたが、さらなる展開までには至らなかった。今後は感染対策を徹底しながら、新学習指導要領の改訂のポイントを踏まえたカリキュラムマネジメントが課題である。	【意見】 ・コロナ禍の状況下で、可能な限りの教育活動の取組がみられる。 ・医療的ケア児の受け入れとその支援体制を評価することができる。 ・オンライン学習システムによる教材配信や情報発信などの工夫が見られたこと、電子黒板の導入等ICT活用により教材の幅が広がり、子どもの育ちと学びのための取組が各所でみられる。	
2			確かな学力と豊かな心を育むと共に、生きる力を身につける指導に取り組んでいる。	3.0	3.0	3.3			
3			主体的対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組んでいる。	2.9	2.8				
4		体験活動	体験活動を通して、挨拶や交通ルール、公共のマナーを守る児童生徒を育てている。	2.7	3.2	3.4			校外における体験学習は自粛や縮小せざるを得なかった。しかし、校内で可能な範囲の季節的行事の体験や疑似学習に取り組む工夫を重ね、体験的な学習に取り組んだ。今後も児童生徒の実態を踏まえた学習活動の充実を目指す。
5			児童生徒の実態を踏まえ、行事の内容を検討し活動の充実を図っている。	3.0	3.0				
6		教員の専門性	授業研究等を通して、教師同士が意見交換を行い、専門性の向上に努めている。	2.9	3.0				大学より専門の講師を招請し、学部研修を実施した。ビデオ録画等でさらに研修内容を深め、特別支援教育の専門性、実践力を高められるように取り組んだ。新学習指導要領に対応した指導技術のさらなる向上を目指す。
7		情報教育 ICT活用	ICTに関する研修により、知識や活用の幅を広げると共に、情報モラルについても指導している。	2.8	2.7	3.1			学びのイノベーション事業により各教室に電子黒板が配置され、日常的な活用が進んだ。さらに効果的な活用のための研修を深めていく。
8	道徳・人権教育	生命を大切にすること、他人を思いやる心を育てる視点を意識し、教育活動に取り組んでいる。	3.0	3.0	3.3	教育活動全般で取り組んでいる。特に今年度は、感染症対策と共に「命の大切さ」について重点的に取り組んだ。今後も引き続き意識向上に努める。			
9	健康、食育	健やかな体づくりに向け、栄養教諭・保護者と連携し学校教育全般を通して食育に取り組んでいる。	3.2	3.1	3.5	学校医の指導のもと新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、歯磨き指導の中止、黙食に取り組んだ。栄養教諭を中心にメニューの充実を努め、児童生徒の学校生活の楽しみとなっている。引き続き児童生徒の健やかな体づくり推進に努める。			
10	連携 (保護者支援)	児童生徒の個々の課題について、懇談会等を通して保護者と確認共有し、課題解決に丁寧かつ誠実に取り組んでいる。	3.1	3.2	3.5	児童生徒の様子については日頃より丁寧な説明を心がけて取り組んでいる。引き続き保護者とともに、児童生徒の課題解決を目指す。			
11	いのちと人権を大切に する学校づくり	防災 危機管理対応	防災マニュアルの見直しと防災避難訓練の工夫改善を行い、危機管理体制の充実を図っている。	3.0	2.9	3.5	マニュアルの改良、並びに避難方法の見直し、また、今年度初めてPTA役員による避難訓練参観に取り組んだ。コロナ禍における迅速かつ効果的な避難方法の習得に引き続き取り組む。	【提案・今後の期待】 ・オンラインシステムの一層の充実活用と、それに伴う情報モラル、マナー学習の推進(保護者、校外向けの研修も含む) ・企業等に向けた啓発理解配信 ・関係機関との連携と支援の一層の強化 ・早期からの卒業後に向けた進路指導、キャリア教育の充実 ・コロナ禍の学校行事の在り方(休日参観等) ・高校等へのセンター的機能の役割	
12		いじめ 生徒指導	人権意識を高く持ち、いじめ防止や人権遵守等、児童生徒の従事し人間関係の育成に努めている。	3.1	3.0	3.3	児童生徒との会話や表情の丁寧な観察や、生活アンケートを活用しながら、今後も未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいく。		
13		個人情報保護	個人情報保護の観点に基づき、児童生徒や保護者に関する情報など、情報の管理を適切に行っている。	3.2	3.0	3.5	職員のパソコンセキュリティも強化され、一層の情報管理を徹底したい。		
14		個別の教育支援計画	本人・保護者の願いに基づき、合理的配慮の合意形成を踏まえた目標を設定し、達成に向けて取り組んでいる。	3.1	3.1	3.6	日頃より、指導について保護者に丁寧に説明をし、連携を基に、児童生徒の課題解決に取り組んでいる。自立活動の指導については、より実態に即した指導の充実を目指し、作成シートの見直し、改善を図っている。		
15			「年間指導計画」に沿って、合理的配慮を踏まえた「個別の指導計画」の作成と見直しを行っている。	3.0	3.1	3.5			
16		キャリア教育	個々の課題解決に向けてキャリア教育発達段階表を意識した授業を実践している。	2.9	2.8	3.2	感染症対策を徹底する中で「清掃検定」に取り組んだ。今後さらに、キャリア教育発達段階表を活用した実践が課題である。		
17		進路指導 保護者支援	本人・保護者の願いに寄り添った継続的な進路指導に取り組んでいる。	2.9	3.0		コロナ禍により、情報発信がオンライン会議や資料提供となる変更が多かった。今後は、感染防止対策を徹底した上で、説明会や参観等の直接的な情報発信が求められる。		
18	進路説明会等を実施し、早期より保護者に卒業後の生活に向けて情報提供ならびに意識啓発を行っている。		3.0	3.1	3.2				
19	連携 (職員)	児童生徒の個々の課題に対して、担任団・学年団・学部等で情報共有ができていく。	3.1	3.1	3.2	学部間の情報共有については資料作成を含め、より一層の強化が求められる。			
20	センター的機能	教育相談や研修会により、他機関や地域の施設・学校との連携を深め、センター的機能としての役割を推進している。	2.8	3.0		例年のような教育相談や研修会の実施は難しかったが、初めて高等学校に教育相談の案内を配布することができた。			
21	情報発信	HPや紙面などの方法で効果的な情報発信を行い、地域や保護者に対して、本校教育への理解啓発を進めている。	3.0	3.1	3.2	学校再開に向け、また、再開後の学校の様子について、HPやブログ、文書を活用し随時発信を行った。引き続き、より効果的な情報発信に努める。			
22	働きがいのある 職場づくり	勤務時間の適正化に向け、業務改善や意識改革に取り組んでいる。	2.7	2.7		今年度から新たに加わった感染症対策の消毒業務や防護服の作成等は様々な業種の職員にも分担し、業務改善に努めている。留守番電話の活用についても、さらに理解を求め徹底に努めたい。			
23	広がるつながる 学校づくり	連携 (外部機関)	児童生徒の個々の課題について、家庭・外部機関と協力・調整を図り、情報を共有して課題解決に取り組んでいる。	3.0	3.1	3.2	臨時休業中の児童生徒の「居場所づくり」は、福祉や行政と連携し確保することができた。今後も迅速かつ丁寧な連携に努めたい。		
24		家庭との連携	オンライン学習システムによる教材配信に取り組んだ。学校のブログにより臨時休業中の学校の様子、日々の取り組みについて発信した。	2.4			臨時休業中は週1回以上、家庭への電話連絡を行い、学校の様子を伝えながら家庭の状況や課題学習の進捗の確認を行った。また、再開後は、「学校の新しい生活様式」を基に、「3密回避、消毒、換気、手洗い、マスク」対策を徹底し、学習内容や方法を工夫しながら教育活動を展開した。コロナ禍で習得した知識や技術を来年度以降の生活に活かしたり定着したりするような取り組みへ拡げることが課題である。		
25	新型コロナ 対応	新型コロナ感染症拡大 防止対応	新型コロナ感染症拡大防止のための対策、新たな生活様式のための指導に取り組んでいる。	3.2			臨時休業中、分散登校中の教職員の出勤率7割以下を目標に取り組んだ。		
26		家庭学習支援	オンライン学習システムでの教材配信のための動画作成、個に応じた課題の作成に取り組んだ。	2.7					
27									

(まとめ)
 上記の結果から今年度の本校の教育活動については、コロナ禍の影響が大きいということが明白である。緊急事態宣言発令という未曾有の事態で、感染拡大防止を徹底しながら、保護者や地域の方々の理解と協力のもと、「安全・安心」をコンセプトに子ども達の学びを進めることができた。今年度の本校の歩みとしては、大きな学校行事が全て自粛となり、例年に比べると力強さには欠けたように見えたかもしれないが、子ども達の学びを進めるために、あらゆる形を検討し、その是非を見つめ直す1年でもあった。特に、これからはますます進化を続ける社会「Society 5.0(ソサエティ5.0)」に必要となる情報に対応する力においては、弱さが浮き出る結果となっている。ただ、外部関係者評価においては、今年度初の取組であったオンライン学習システム、電子黒板の設置によるICT活用について、一定の評価をいただいている。今後は、文部科学省推進構想でもあるGIGAスクール構想も踏まえ、本校においても情報教育の推進が喫緊の課題といえる。
 今年度の保護者アンケートでは、コロナ禍の対応について、具体的に問う項目を設定した。活動に対する意見や、保護者が感じた不安を率直に分析し、今後の参考としながら即効性のある改善に取り組む予定である。地域との行事が制限される中、新しい取り組みとして、PTA役員が避難訓練を参観し、来年度の改善に向けての貴重な参考意見をいただくことができた。
 今年度は、世界的に子ども達の未来をどのように守ることができるのか？そして、これからの社会を生きる子ども達に何が必要で何をどのように学ぶか？という、学習指導要領が求めている「生きる力」を具現化する1年でもあった。今後、再び起こり得るかもしれない困難に、子ども達自身が解決に向かえるよう「今」を見直し、その糸口となる「未来」につながる力の育成に取り組む、その支えとなる「地域」とともにある学校を目指して歩みを進めたい。

令和2年度 学校評価 評価平均グラフ

